

島本町文化財調査報告書

第 17 集

山崎・東大寺・広瀬地区遺跡範囲確認調査概要報告

平成 23 年 3 月

島本町教育委員会

序 文

島本町では、数多くの文化財の存在が周知されています。これらの文化財を保護・保全し、守り伝えていくことは私達の大切な役目です。

本町では、平成22年4月に町制70年を迎え、また平成23年2月には人口が3万人を越え、京都、大阪の近郊地としてみずみず発展をしております。

平成20年7月に島本町文化財保護条例を施行し、住民共有の歴史文化遺産を広く公開し、文化財や歴史に対する意識を高め、個性豊かな町づくりを推進しています。また、埋蔵文化財について包蔵地の周知と保護を行うとともに、未だ遺跡の確認されていない地域での調査も実施し、新たな埋蔵文化財の発見に努めています。

本報告書は、町内の遺跡の広がりを把握することを目的とし、国庫補助事業として、平成22年度に実施した遺跡範囲確認調査の成果を報告するものです。

最後になりましたが、調査にあたりまして、多大なご指導、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました土地所有者の方や近隣の皆様方には紙面をおかりして、深く感謝しお礼を申し上げますとともに、本町の文化財保護行政に対し、今後とも、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

島本町教育委員会

教育長 森川正啓

例 言

1. 本書は、平成22年度国庫補助金事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した、山崎地区、東大寺地区、広瀬地区の遺跡範囲確認調査報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局生涯学習課嘱託職員久保直子を担当者とし、平成22年5月25日に着手し、島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査及び報告書作成業務を実施し、平成23年3月31日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)
【調査員】 坂根 瞬
【調査補助員】 藤田 真理 木村 友紀 布施 英子
4. 本書の執筆は久保・木村(遺物編)が行い、作成・編集は久保、坂根が行なった。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用及び本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地作業及び整理作業においては、下記の関係機関ならびに方々には貴重なご指導ご教示を賜った。記してここに感謝の意を表します。
大阪府教育委員会事務局文化財保護課

凡 例

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海水面(T. P. [Tokyo Peil])を基準とした数値である。方位は、国土座標第Ⅳ系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。
3. 遺構記号については、以下の通りである。
P:ピット SD:溝 SX:性格不明遺構
4. 本書で使用している北は、特に断りのない限りは「真北」を示す。

目 次

序 文

例 言

目 次

挿 図 目 次

図 版 目 次

第1章 はじめに

第1節 烏本町の地理的概要……………1

第2節 烏本町の歴史的環境……………1

第2章 調査の概要……………2

第1節 東大寺地区遺跡範囲確認調査

東大寺三丁目（水無瀬荘跡遺跡）

1) 層位……………4

2) 検出遺構……………4

第2節 広瀬地区遺跡範囲確認調査

広瀬一丁目（広瀬遺跡）

〈11号地〉

1) 層位……………5

2) 検出遺構……………7

3) 出土遺物……………7

〈16・18号地〉

1) 層位……………17

2) 検出遺構……………17

広瀬三丁目（水無瀬離宮跡遺跡）

1) 層位……………18

2) 検出遺構……………18

3) 出土遺物……………20

第3章 平成22年度埋蔵文化財調査概要……………20

第4章 まとめ……………21

挿 図 目 次

第1図	島本町内遺跡分布図 (1/10,000)	
第2図	調査地位置図 (1/2,500)	3
第3図	調査地平面図・断面図 (1/50)	4
第4図	調査地位置図 (1/2,500)	5
第5図	調査地配地図 (1/1,000)	5
第6図	調査地平面図・断面図 (1/50)	6
第7図	出土遺物実測図 (1/3)	8
第8図	出土遺物実測図 (1/3)	9
第9図	出土遺物実測図 (1/3)	10
第10図	出土遺物実測図 (1/3)	11
第11図	出土遺物実測図 (1/3)	12
第12図	出土遺物実測図 (1/3・1/4)	13
第13図	18号地平面図・断面図 (1/50)	16
第14図	16号地平面図・断面図 (1/50)	17
第15図	調査地位置図 (1/2,500)	18
第16図	調査地平面図・断面図 (1/50)	19

付 表

付表1	本報告書掲載遺跡	3
付表2	軒丸瓦観察表	14
付表3	軒平瓦観察表	14
付表4	丸瓦観察表	14
付表5	平瓦観察表	14
付表6	平成22年度 埋蔵文化財調査の届出・通知 工事内容内訳	20

図版目次

- 図版一 東大寺地区（水無瀬荘跡遺跡）
調査地全景（南から）
試掘坑4・調査状況（西から）
- 図版二 広瀬地区（広瀬遺跡・11号地）
調査地全景（北から）
南壁断面（北から）
- 図版三 広瀬地区（広瀬遺跡・18号地）
調査地全景（西から）
石敷き検出状況（北から）
南壁断面（北から）
- 図版四 広瀬地区（広瀬遺跡・16号地）
遺構検出状況（西から）
北壁断面（南から）
- 図版五 広瀬地区（水無瀬離宮跡遺跡）
拡張区第1遺構面全景（西から）
拡張区第2遺構面全景（西から）
北壁断面（南から）
- 図版六 広瀬遺跡出土遺物（軒丸瓦）
- 図版七 広瀬遺跡出土遺物（軒丸瓦）
- 図版八 広瀬遺跡出土遺物（軒平瓦）
- 図版九 広瀬遺跡出土遺物（平瓦）
- 図版十 広瀬遺跡出土遺物（丸瓦）
- 図版十一 広瀬遺跡出土遺物（丸瓦・土師器・白磁）



1. 山崎古墓 2. [府指] 有文 関大明神社本殿 3. 鈴谷瓦窯跡 4. [重文] 水無瀬神宮客殿・茶室 5. 水無瀬離宮跡
6. 桜井駅跡 (6) [史] 桜井駅跡 (楠木正成伝承地) 7. 伝持首小侍従墓 8. 越谷遺跡 9. 源吾山古墳群 10. 水無瀬往跡
11. 御所池瓦窯跡 12. 桜井道跡 13. 桜井御所跡 14. 広瀬道跡 15. 広瀬南道跡 16. [府指] 天 尺代のヤマモモ
17. [府指] 天 大沢のスキ 18. 山崎西遺跡 19. 神内古墳群 20. 山崎東遺跡 21. [府指] 天 若山神社「ツブラジイ林」
22. 御所ノ平遺跡 23. 青葉遺跡 24. 法瀬清田遺跡 25. 鈴谷遺跡 1001. 西国街道

第1図 島本町内遺跡分布図 (1/10,000)

第1章 はじめに

第1節 島本町の地理的概要

島本町は、大阪府の北東端、京都府との境に位置する面積16.78km²の町である。北は京都市西京区と長岡京市、北東は大山崎町、東南は八幡市、南は枚方市、西は高槻市に隣接する。

町の面積全体の約7割を山岳丘陵地が占め、人口約3万人の自然豊かな町で、町域の東南部で、木津川、宇治川、桂川の三川が合流して南西に流れる淀川が造り出す地形は、北側の天王山山城と南の生駒山地の南端となる八幡市の男山丘陵とを分ける山崎狭隘部と呼ばれる。

自然環境の面でも「大沢のスギ」や「尺代のヤマモモ」「若山神社のツブラジイ林」が大阪府指定の天然記念物に指定されており、豊かな自然が残されている土地でもある。また水無瀬神宮の「離宮の水」は後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮にちなんで名付けられたと言われており、昭和60年7月に大阪府内で唯一、環境庁認定の「名水百選」に選ばれている。

第2節 島本町の歴史的環境

島本町では、国指定史跡桜井駅跡をはじめとして、多くの遺跡や文化財が周知されている。

島本町における人々の生活の始まりは旧石器時代にさかのぼる。山崎西遺跡は未調査のため概相は不明であるが、サヌカイト製の国府型ナイフ形石器とチャート製の剥片数点が採集されることから、旧石器時代の終わり頃から人々が生活し始めたと考えられる。町の西側に位置する越谷遺跡では縄文時代後期に相当する北白川上層式1期から2期の鉢・甕が多く出土し、弥生時代の土器も出土していることから、狩猟・採集の時代から集団で稲作を始める頃へと、人々の生活が途切れることなく営まれたことが想像される。その地より東側西国街道に近い青葉遺跡や史跡桜井駅跡周辺においても近年、弥生時代中期から後期にかけての土器が出土しており、広い範囲で古代から生活が営まれたと考えられる。桜井地区の源吾山古墳群と高槻市にまたがる神内遺跡からは、名神高速道路建設時に古墳時代の土器や鉄器が採集され、付近に古墳や古墳時代の集落があったことを示している。

奈良時代になると、奈良の東大寺に瓦を供給したのではないかとされる鈴谷瓦窯が造られた。この地の南に位置する御所ノ平遺跡では鈴谷瓦窯跡で出土したものと同種の瓦が出土し、竈付の住居跡が検出されたことから、瓦の工人の住居ではないかと考えられる。西国街道を中心に広がる広瀬遺跡でも集落跡の存在が確認されており、広範囲にわたって、生活の場が存在したと考えられる。また、水無瀬川の西岸部には、東大寺正倉院に残る日本最古の絵図「摂津国水無瀬荘園」に描かれる奈良東大寺領の荘園「水無瀬荘」が造営された。

その後、平城京から長岡京、平安京へと遷都されていくにつれ、島本町は水・陸の交通上重要な位置を占めるようになった。「延喜式」にある山崎駅の記述や「土佐日記」「更級日記」などに

は、山崎津の賑わう様子が記載されている。平安時代以降には桓武天皇や嵯峨天皇が頻繁に訪れ、中でも後鳥羽上皇は、鎌倉時代のはじめに水無瀬離宮を造営し遊興の時を過ごした。

中世期以降には、『太平記』の記述で有名な史跡桜井駅跡がある。この史跡は延元元年（1336）足利尊氏の大军を迎え撃つため京都を発った楠木正成がここで長子の正行に遺訓を残して河内へと引き返らせた「楠公父子別れの地」として広く世に知られ、現在もこの地を訪れる観光客は後を絶たない。また、時代はさかのぼるが、桜井駅跡は奈良時代の初め、京から西国に向かう道筋に設置された駅（うまや）の一つに「大原駅」が統日本紀に記され、これが桜井駅跡を指すものとも考えられている。

第2章 調査の概要

本調査事業は、平成13年度から国庫補助事業として島本町内で周知される埋蔵文化財包蔵地範囲内、及び包蔵地外で遺構や遺物の有無などを確認するために行なっているものである。

東大寺地区の調査地は、遺跡包蔵地水無瀬荘園跡遺跡に含まれる。この水無瀬荘園跡は奈良の正倉院に残る日本最古の絵図「摂津職水無瀬荘絵図」に描かれている場所である。これまで、開発に伴い、小規模な発掘調査を何回か行なってきたが、荘園跡に関係する大きな成果はあげることができなかった。一つの成果として上げられるのは、平成元年に水無瀬荘園跡跡に隣接する広瀬遺跡内で行なった調査で、水無瀬荘民に関係する倉庫建物跡（8世紀末～9世紀初頭）ではないかと考えられる遺構を検出したことである。奈良東大寺の所領の荘園がどの範囲まで広がっていたのかは現在のところはっきりとした線引きはできないが、今回の調査では数か所の試掘を入れ、荘園跡や荘園に関係する施設などの遺構の検出を試みた。

広瀬地区については、遺跡包蔵地広瀬遺跡内の調査で、平成21年度に行なった、宅地開発に伴う遺跡発掘調査（未報告）で、島本町で初めて水無瀬離宮跡に関係すると考えられる建物跡が発見され、新聞紙上を賑わせた場所の調査である。今回は個人住宅の新築工事に伴い、建物跡の延長と考えられる宅地部分の試掘調査と数か所の立会いを行い、前年度の調査成果をさらに裏付ける遺構の検出を想定して行なった。もう一件は、水無瀬神宮の西側、遺跡包蔵地水無瀬離宮跡遺跡内で調査を行い、水無瀬離宮跡に関係する遺構の発見が期待された。

山崎地区では、遺跡包蔵地外であるが、開発場所が近世西岡街道（旧山陽道）に隣接していること、また、この付近は交通の要路にあたり、近くには都などで大事が起こった場合に入出口が開閉できるよう関門が設けられていたということもあり、それらに関係する遺構の検出が考えら、地権者にお願し、協力を得て調査を行うことができた。しかし、調査開始時期（平成23年3月8日から開始、3月17日に終了）が、年度末であったため、今回の報告書には掲載することができなかった。次回の報告書に併せて記載することとする。

遺跡名	遺跡所在地	調査期間
水無瀬荘跡遺跡	島本町東大寺三丁目 地内	平成 22 年 5 月 14 日～ 5 月 21 日
広瀬遺跡	島本町広瀬一丁目 地内	平成 22 年 5 月 25 日～ 8 月 6 日
水無瀬離宮跡遺跡	島本町広瀬三丁目 地内	平成 22 年 12 月 15 日～12月 18 日

付表 1 本報告書掲載遺跡

第 1 節 東大寺地区遺跡範囲確認調査

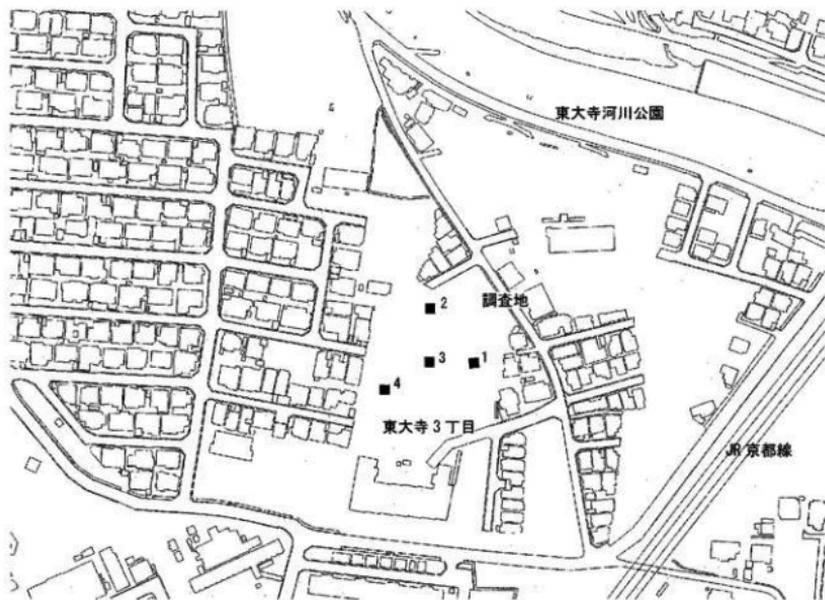
東大寺三丁目（水無瀬荘跡遺跡）

調査期間：平成22年5月14日（月）から5月21日（水）

調査地：大阪府三島郡島本町東大寺3丁目 地内

調査面積：約10㎡

調査は調査範囲に約15×15mの試掘坑を4か所設定した。5月14日に試掘坑4ヶ所を設置し、掘削を行なった。結果、4か所の調査区のうち、1ヶ所に包含層が認められたため、20・21日に調査を行なった。



第 2 図 調査地位置図 (1/2,500)

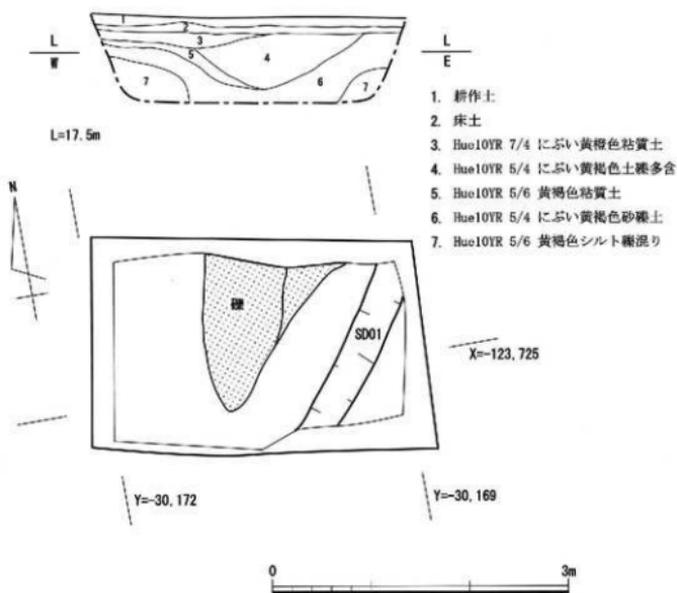
1) 層位 (第3図・図版一)

以前から耕作地であったため、0.2~0.3mの耕作土(1・2)が広がる。その下層には、黄橙色の粘質土層(3)があり、礫層が見られる箇所もあるが、粘質土層の下層には深くシルト層が続いている。

2) 検出遺構 (第3図・図版一)

SD01

幅約0.4mほどの小さな溝である。遺物はほとんど出土しなかった。水無瀬荘園の存した時代に関連するとの断定はできない。



第3図 調査地平面図・断面図 (1/50)

第2節 広瀬地区遺跡範囲確認調査

広瀬一丁目 (広瀬遺跡)

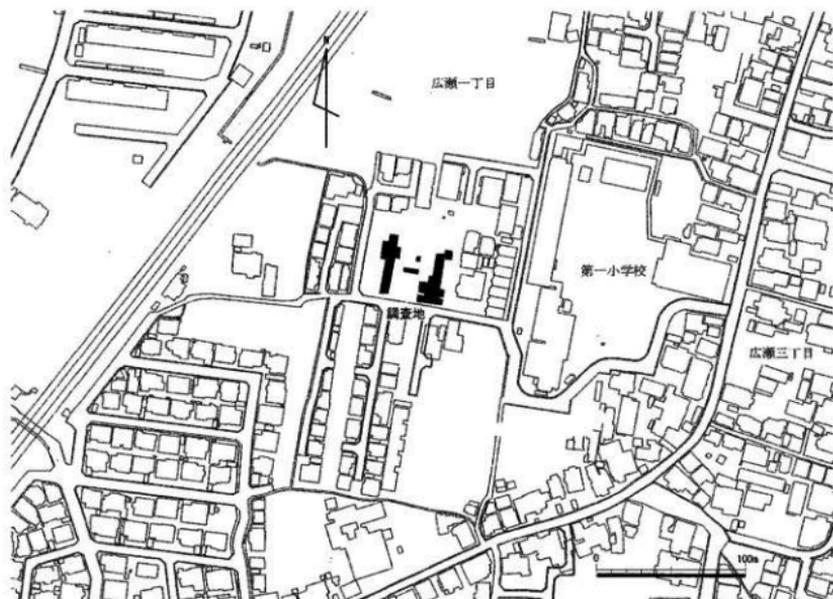
〈11号地〉

調査期間：平成22年5月25日(火)から5月28日(金)

調査地：大阪府三島郡烏木町広瀬一丁目 地内

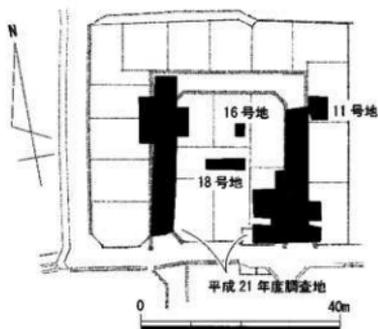
調査面積：約18m²

調査は個人住宅建設に伴って、宅地の一部の発掘調査を実施した。調査場所については、水無瀬離宮の関連建物跡と考えられる場所で、工事立会い時に、数十片の軒丸・軒平瓦が出土したが、



第4図 調査地位置図 (1/2,500)

調査範囲が狭かったため遺構の確認には至らなかった。しかしその延長には、瓦の溜りを有する掘り穴や、建物に関連する施設跡などの存在が予想された。今回の調査では詳細な記録をとるため、その付近約4.0×4.5mの調査区を設定し、遺構の性格を調査することとした。

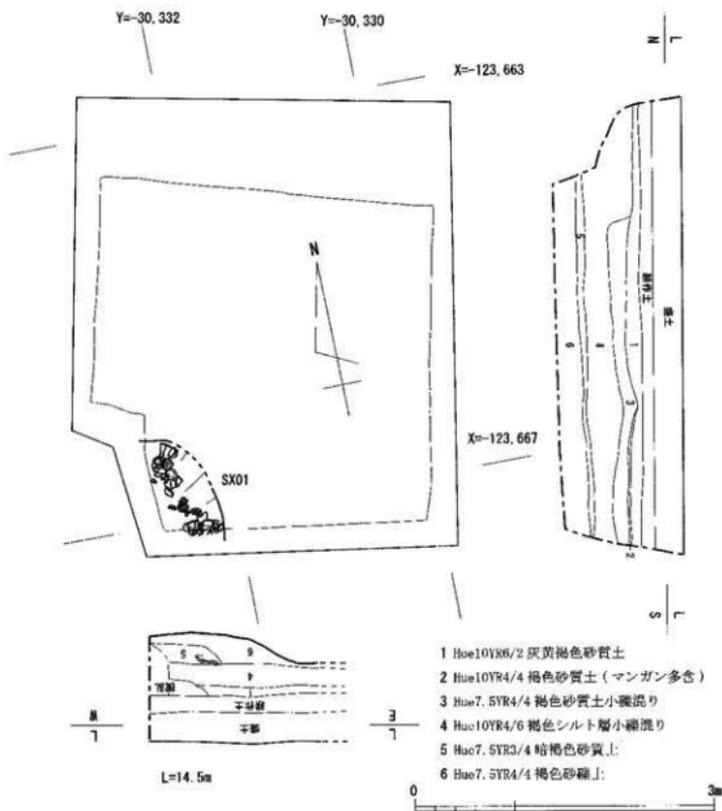


第5図 調査地配置図 (1/1,000)

1) 層位 (第6図・図版二)

調査地の層位は宅地の造成が行われたため、地表から約0.3mの盛土があり、下層には0.15mの耕作土が広がる。その下層には

近世の旧の耕作土と思われる灰黄褐色砂質土（1）があり、その下には、マンガンを含む褐色砂質土層（2）が薄く走っている。その下層には、褐色砂質土（3）が全面に広がり、この層からの出土遺物から中世の遺構面と考える。その下には、褐色のシルト層（4）があり、（5）の暗褐色砂質土層へと続く。この層からは瓦が多く出土している。その下には礫層があり、建物造営時の事業とも考えられる。このように、中世の遺構面が地表から数十センチのところで見出されるのは高本町では非常に珍しい。



第6図 調査地平面図・断面図（1/50）

2) 検出遺構 (第6図・図版二)

S X 01

前年度の周辺の発掘調査では、褐色砂質土の整地層が広がり、建物跡の検出や瓦の出土は認められなかった。今回の調査地は、前年度調査地より少し東側にあたる。

出土遺物のほとんどが瓦類である掘り穴を検出した。掘り穴の規模は約1.0×1.0mで、付近に建物があったのか、瓦を投棄するための掘り穴とも考えられる。

この掘り穴の周辺の精査を行なったが、建物跡や、他の遺構の検出はできなかった。

3) 出土遺物 (第7～12図・図版六～十一)

今回の調査地では瓦が最も多く出土した遺物であり、総出土数は277点を数える。出土した瓦は全て胎土・焼成・法量が似通っているが、セット関係は不明である。

軒丸瓦 (第7・8図・図版六～七)

右巻き三ツ巴文軒丸瓦 (1～7) と宝相華文軒丸瓦 (8～13) の2型式に分類でき、合計27点出土している。その内訳は右巻き三ツ巴文軒丸瓦が7点、宝相華文軒丸瓦が13点、不明7点である。

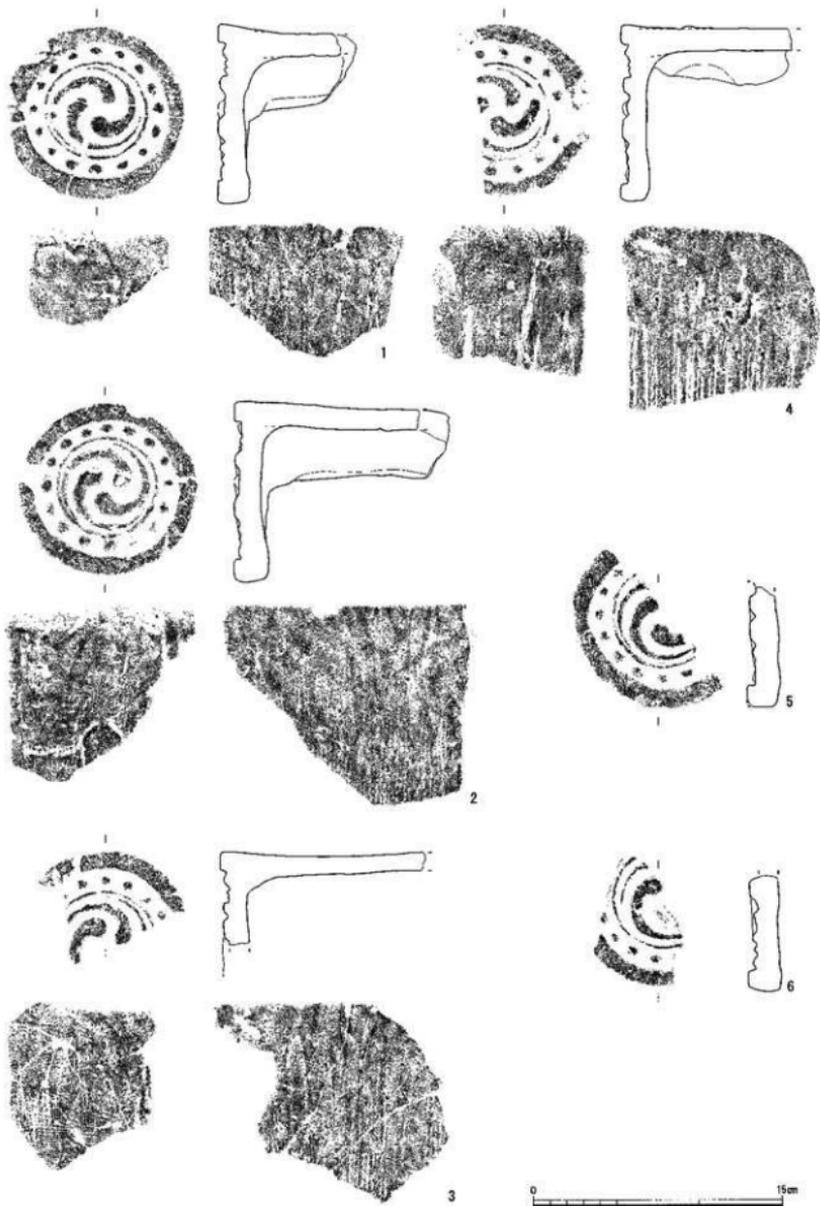
右巻き三ツ巴文軒丸瓦は巴文の周囲に細い円線を巡らし、その外側に疎な珠文帯を配する。宝相華文軒丸瓦は石清水八幡宮に文様が酷似するものがある。両型式共、瓦当裏面は指オサエ痕が顕著に残り、その後の調整は行なっていない。丸瓦部凸面は縄タタキの痕跡が明確に残るが、瓦当部付近のみ縦ナデを行なっている。右巻き三ツ巴文軒丸瓦には平瓦部凹面に粘土と布袋の付着を高めるための吊り紐の痕跡が残るものが1点ある (2)。

軒平瓦 (第9図・図版八)

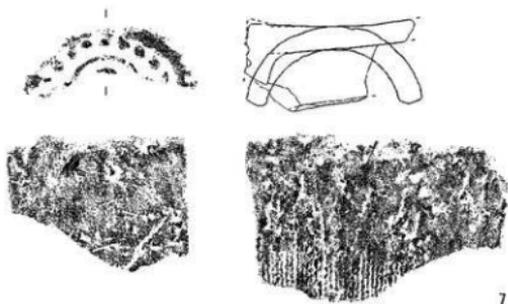
均整唐草文軒平瓦と剣巴文軒平瓦の2形式に分類でき、均整唐草文軒平瓦は更に2種に細分することができる。(15・16) は均整唐草文軒平瓦であり、唐草を三回反転させ、中心部は「w」字状となる。(14) は(15・16) の文様が退化したもので、唐草が波状となる。(14) の文様の類例は石清水八幡宮、鹿苑寺、法住寺殿などの瓦に見ることができる。また、(14) と(16) は平瓦部凹面にへら状の工具によって2本の平行線が描かれている。(17) は剣巴文軒平瓦である。均整唐草文軒平瓦の唐草が退化していないものは2点、退化しているものは1点、剣巴文軒平瓦は1点出土しており、これらの軒平瓦の瓦当部は全て折り曲げ技法によって製作されている。平瓦部凹面は布目痕を残し、凸面はナデによって調整を行なっており、縄タタキの痕跡はみえない

丸瓦 (第10図・図版十・十一)

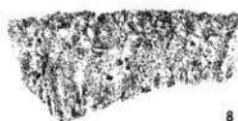
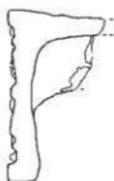
109点出土している。凸面は軒丸瓦と同様に縄タタキ痕を顕著に残し、凹面には細く密な布目痕がみられる。凸面狭端付近に外側に広がる2本のへら書きが施されたものが10点出土している。このへら書きは軒丸瓦の丸瓦部凸面にも描かれた可能性が高いが、丸瓦部凸面狭端付近まで



第7圖 出土遺物實測圖 (1 / 3)



7



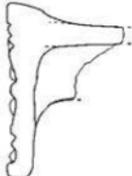
8



10



11



9



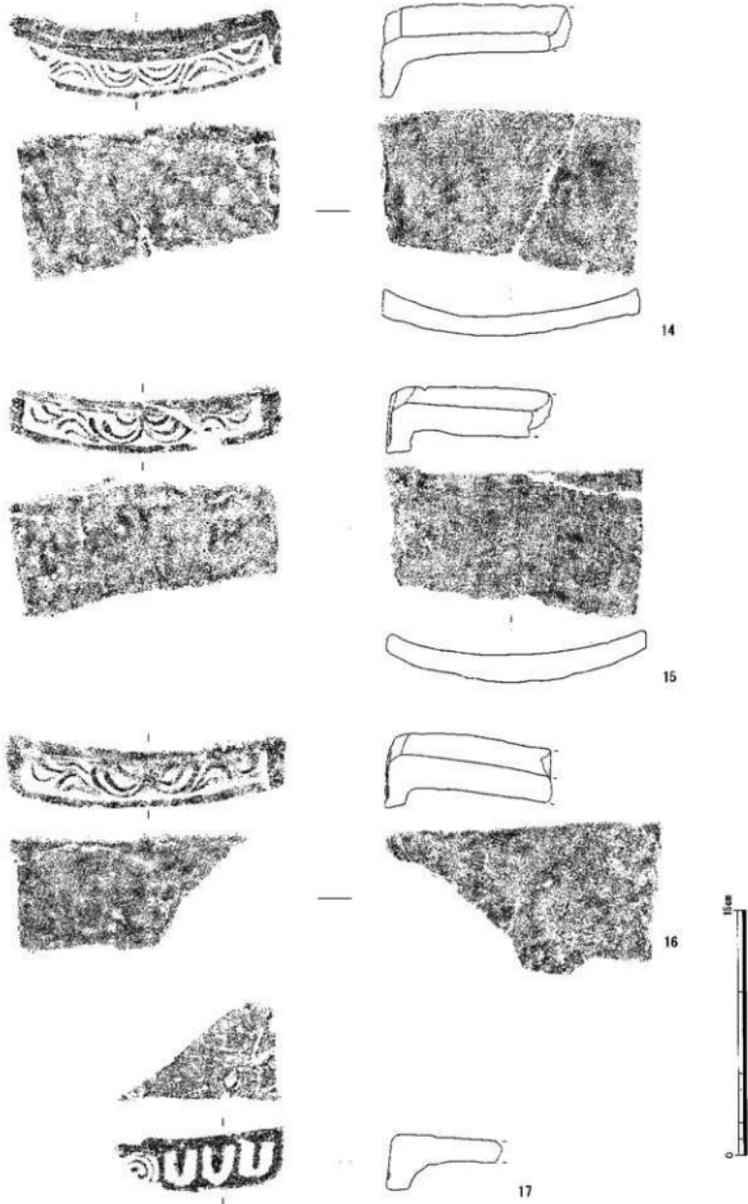
12



13



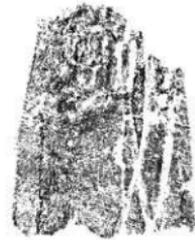
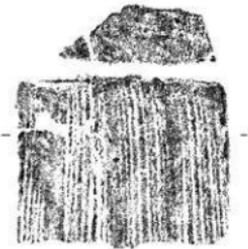
第8图 出土物实测图 (1/3)



第9圖 出土遺物実測図 (1/3)



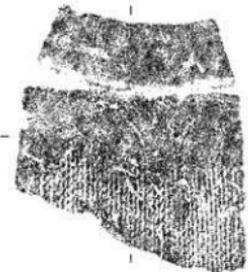
18



19



20



21



第10圖 出土遺物實測圖 (1 / 3)



22



23



第11図 出土遺物実測図 (1 / 3)



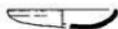
24



25



26



27



28



29



30



31



32



第12図 出土遺物実測図 (1 / 3 · 1 / 4)

付表2 軒丸瓦観察表 (第7・8図)

No.	文 様	産子 数	法 量					出 土 地 点	備 考
			全長 (cm)	瓦当直径 (cm)	瓦当厚 (cm)	外区幅 (cm)	外区高 (cm)		
1	三ッ巴文	16	(8.35)	10.70	1.90	1.20	0.40	立会い	
2	三ッ巴文	16	(12.50)	10.70	2.10	1.00	0.40	立会い	凹面に吊り紐痕
3	三ッ巴文	(5)	(12.40)	(5.70)	1.75	1.10	0.35	立会い	
4	三ッ巴文	(9)	(11.80)	10.40	1.80	0.70	0.50	立会い	
5	三ッ巴文	(8)	(2.20)	(7.30)	(2.00)	1.20	0.50	立会い	
6	三ッ巴文	(4)	(2.70)	(6.60)	2.00	0.85	0.45	立会い	
7	三ッ巴文?	(10)	(10.20)	(3.50)	1.40	1.10	0.20	立会い	
8	宝相華文	24	(6.90)	10.50	1.90	1.00	0.50	11号地 SX01	
9	宝相華文	24	(7.05)	10.50	1.50	0.70	0.50	11号地 SX01	
10	宝相華文	(17)	(4.30)	10.30	1.70	0.90	0.40	立会い	
11	宝相華文	(12)	(2.60)	(10.00)	1.90	0.70	0.40	11号地 SX01	
12	宝相華文	(14)	(3.30)	10.15	1.90	1.00	0.45	11号地	
13	宝相華文	(6)	(2.20)	(6.20)	(2.20)	0.85	(0.40)	立会い	

※括弧内の数字は残存値

付表3 軒平瓦観察表 (第9図)

No.	文 様	法 量						出 土 地 点	備 考
		全長 (cm)	横幅 (cm)	高さ (cm)	瓦当厚 (cm)	外区幅 (cm)	外区高 (cm)		
14	均整唐草文	(11.45)	16.40	3.70	1.55	0.30	0.10	11号地 SX01	凹面にへら書き
15	均整唐草文	(9.90)	16.60	3.10	1.60	0.40	0.20	11号地 SX01	
16	均整唐草文	(10.0)	17.4	3.30	1.50	0.40	0.10	11号地 SX01	凹面にへら書き
17	剣巴文	(6.95)	(10.10)	3.40	1.90	0.65	0.20	立会い	

※括弧内の数字は残存値

付表4 丸瓦観察表 (第10図)

No.	法 量				出 土 地 点	備 考
	全長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)		
18	(15.35)	—	9.00	1.30	11号地 SX01	凸面にへら書き
19	(14.75)	—	9.80	1.35	11号地 SX01	凸面にへら書き
20	(16.90)	—	10.30	1.20	11号地 SX01	凸面にへら書き
21	(15.80)	—	9.70	1.90	11号地 SX01	凸面にへら書き

※括弧内の数字は残存値

付表5 平瓦観察表 (第11・12図)

No.	法 量				出 土 地 点	備 考
	全長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)		
22	22.95	(7.40)	12.90	1.30	立会い	狭端面に刻印
23	(20.10)	(13.40)	(2.80)	1.50	立会い	狭端面に刻印
24	(9.60)	(12.1)	—	1.30	11号地 SX01上面	広端面に刻印
25	23.30	14.8	12.8	1.25	11号地	狭端面に刻印

※括弧内の数字は残存値

残存している軒丸瓦は今回の調査では出土していないため未確認である。また、凹面に吊り紐痕を残すものが3点出土している。

平瓦（第11・12図・図版九）

128点出土している。凹面は粘土を板状に切り出した際のコビキ痕と離れ砂が残り、粗雑なナデが施されている。軒平瓦の凹面には布目痕が残っているのに対して、平瓦の凹面に布目痕があるものはなかった。凸面は縄タタキの後、粗雑なナデによって調整を行なっている。また、平瓦狭端面もしくは広端面に菊のような放射線状の文様の刻印が押されているものが10点出土している。

出土瓦全体を見てみると、焼成は軟質であり、薄手で小さく、凸面に縦方向の縄タタキ痕を残すものが多い。軒平瓦は折り曲げ技法によって瓦当部を成形しており、これらの特徴は平安時代後期の京都産の瓦に見られるものである。しかし、軒丸瓦や丸瓦に残る吊り紐痕は中世の瓦によく見られるものであり、公家社会から武家社会への転換期の後鳥羽上皇が造営を行なった水無瀬離宮関連の遺跡であるという当遺跡の特徴をよく表した遺物である。

その他の土器（第12図・図版十一）

前述のとおり、この遺構からは、軒丸・軒平・丸・平瓦とほとんどが瓦で、その他の土器として上げられるのが、図化し得た土器の皿4点（26～29）と、同じく土器器皿の破片数十点である。出土した土器器はいづれも小型で、赤褐色を呈し大きさは口径が8.5～10cmほどである。時期も瓦と同じ時期で平安時代の終わりから鎌倉時代にかけてのものと考えられる。（30・31・32）は前年度に出土した白磁の底部である。この土器の時期も平安時代の終わり～鎌倉時代初め頃と考えられる。これらの土器については、あとに刊行する報告書で詳しく述べる。

〈16・18号地〉

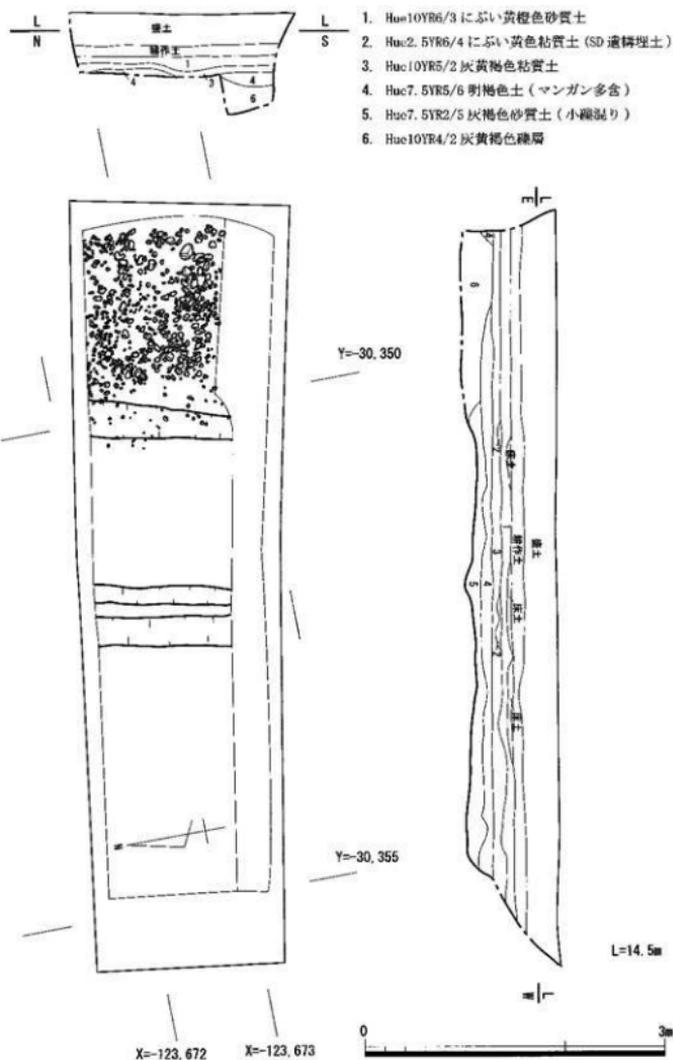
調査期間：平成22年8月2日（月）から8月6日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬一丁目 地内

調査面積：約24㎡

前述の11号地と同じく、個人住宅の新築工事に伴い、宅地の一部の掘削を行なった。この場所も水無瀬離宮に係る建物跡の遺構の延長部分で、建物跡の検出が予想されるため、試掘調査を行なった。

調査は18号地を中心に、約2.5×8.0mの調査区を設定し掘削を行った。離接する16号地は、約2.5×1.5mの規模のグリッドをあけた。



第13図 18号地平面図・断面図 (1/50)

1) 層位 (第13・14図・図版三・四)

18号地 (第13図) は、11号地と同じように浅い耕作土の下にはにぶい黄橙色砂質土 (1) を呈する近世の耕作土があり、すぐ下層には中世の遺構面 (3) が広がっている。明褐色のマンガンを含む層 (4) の下には礫を含む灰褐色土が (5) あり、その層と並行する形で (6) の礫層がある。この礫の広がりは、前年度の調査でも検出されたものと類似しており、建物を造営時の基礎事業ではないかと考えられる。16号地 (第14図) も、ほぼ同様の層位を示す。

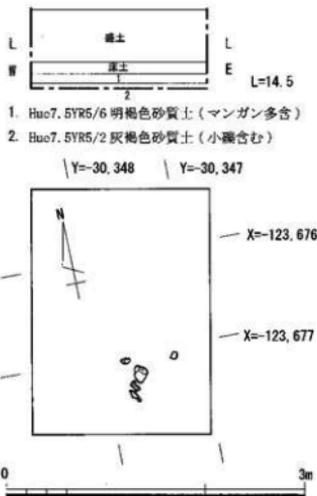
2) 検出遺構 (第13・14図・図版三・四)

SD01

18号地の礫層の西側で検出した。礫敷きに関連する遺構かどうかはわからないが、土師器の破片が出土しており、時期は鎌倉時代のものと考えられる。

SD02・03

18号地のSD01の西側約1.5mの場所で並行するように検出した。関連性は不明だが、時期は出土土器より、SD01と同じく鎌倉時代と考えられる。図化はできなかったが、SD03からは軒平瓦 (剣頭文) が出土している。16号地 (第14図) では、明確な遺構は検出できなかったが中世層で約10~15cmの石敷きがあり、建物基礎に関する可能性が高いと考えられる。



第14図 16号地平面図・断面図 (1/50)

2) 出土土器

18号地では、大半は土師器破片で、中に数片瓦器が含まれる。瓦も出土しており、軒丸・軒平・平瓦が出土しているが図化し得るものはなかった。

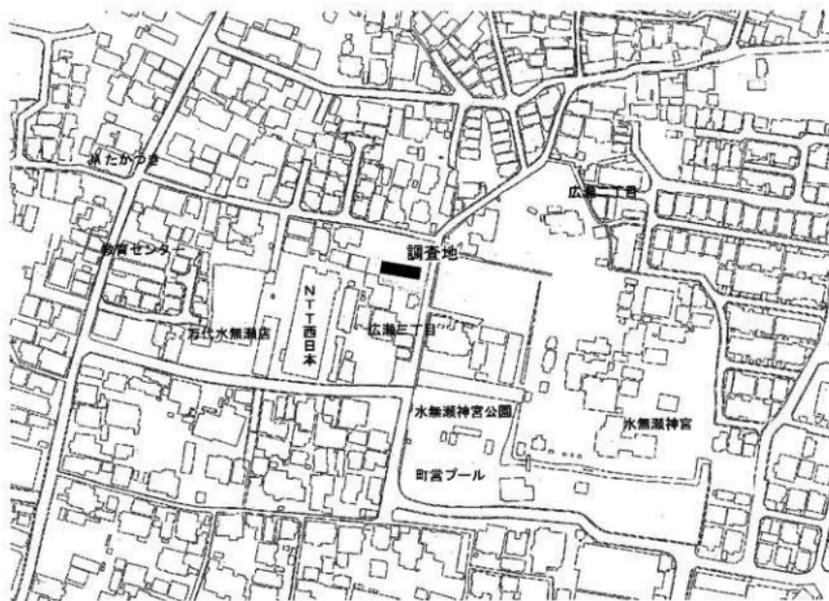
また、16号地では、土器は出土しなかった。

広瀬三丁目 (水瀬離宮跡遺跡)

調査期間: 平成22年12月15日 (水) から12月18日 (土)

調査地: 大阪府三島郡島本町広瀬三丁目 地内

調査面積: 約30.8㎡



第15図 調査地位置図 (1/2,500)

調査地は、水無瀬神宮の西側にあたり、住宅の建て替えなどが進む地域である。今回の調査も住宅の建設に伴い、個人専用道路となる部分、約4.0×7.5mの調査を実施した。

1) 層位 (第16図・図版五)

住宅が建っていたため、地表から約0.5mは住宅基礎や木の根によって攪乱されており、遺構面の確認は非常に困難であったが、近世の層が切る形で中世層、褐色粘砂礫土(2)が確認できた。

2) 検出遺構 (第16図・図版五)

S D01

調査区中央では、鎌倉時代終わり～室町時代と考えられる幅約1.5mの溝が確認できた。水無瀬神宮造営時より新しく離宮に関連する遺構かどうかは分からない。

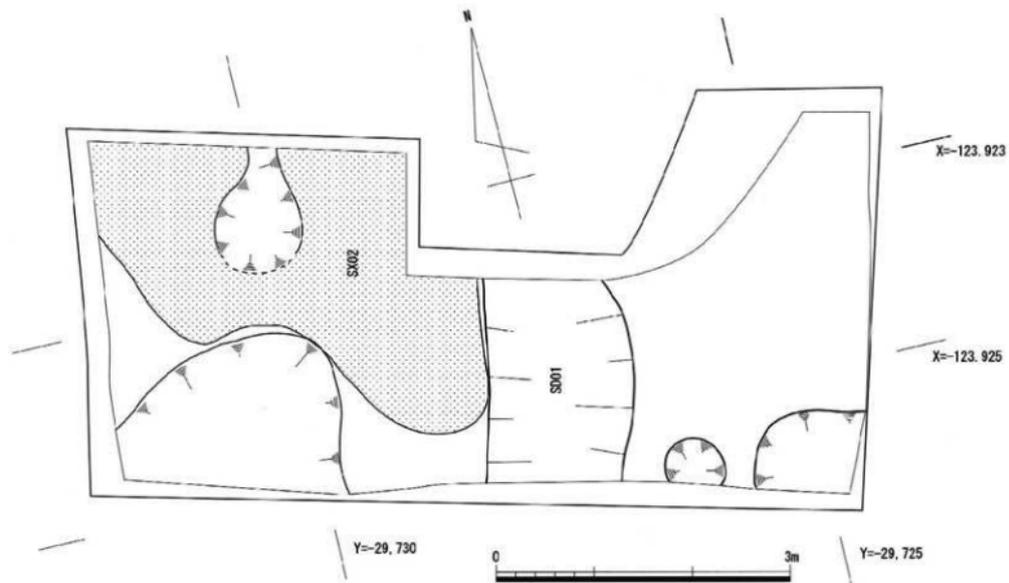
S X02

調査区の西側端で落ち込みを検出した。一部攪乱層があり、この落ち込みがどういったものかは分からないが、礫を含み、土師器の出土も見られるところから、何らかの施設の一部ではないかと考えられる。



L=12.5m

1. Hue10YR6/8 明黄褐色砂粘土 (近世擾乱)
2. Hue10YR4/4 褐色粘砂壤土 (5~10の礫を多く含む)



第16図 調査地平面図・断面図 (1/50)

3) 出土土器

土師器皿、瓦器、瓦質羽釜、瓦、陶磁器類など多様に渡って出土している。古相を呈するものもいくつか出土しているが、全般的に鎌倉時代～江戸時代のものが多い。

中でも、瓦質の羽釜と土師器類が多く出土している。

第3章 平成22年度埋蔵文化財調査概要

この章では、烏木町内で平成22年度に実施した埋蔵文化財調査についての概要を報告する。平成22年度の「埋蔵文化財発見の届出・通知」件数は、平成23年3月5日の時点で89件である。この届出・通知にかかる工事内容は下表（付表6）のとおりである。これらに対する指導事項は、開発事業に伴う立会調査46件、試掘調査2件、発掘調査2件、慎重工事39件である。また、烏木町では、平成20年7月1日より文化財保護条例を施行し、条例の第18条第4項において「埋蔵文化財の包蔵地が周知されている土地以外の土地において、土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で掘削しようとするときは、その内容について教育委員会と協議する」ことを定めた。その条例に従い埋蔵文化財包蔵地外においても届出の提出をお願いし協議、指導を行なった。埋蔵文化財包蔵地外での開発事業に伴う「土木工事計画届出・通知」件数は88件、うち試掘調査は1件、立会い調査は8件である。

道路	0件	鉄道	0件	空港	0件	河川	0件
港湾	0件	ダム	0件	学校	0件	宅地造成	1件
個人住宅	82件	分譲住宅	1件	共同住宅	0件	兼用住宅	0件
その他住宅	0件	工場	0件	店舗	0件	土地区画整理	0件
公園造成	0件	ゴルフ場	0件	観光開発	0件	ガス	5件
電気	0件	水道	0件	下水道	0件	電話通信	0件
農業基盤	0件	農業開発	0件	土砂採集	0件	その他開発	0件

付表6 平成22年度 埋蔵文化財調査の届出・通知の工事内容内訳

付表6のとおり、烏木町教育委員会における埋蔵文化財調査は、個人住宅の新築・建て替えと宅地開発及び分譲住宅に伴う工事立会いが大半を占め、基礎工事及び基礎杭打設工事の事前調査のために個々の調査面積は極めて狭いものであった。調査の対象となった遺跡は、包蔵地としての範囲が広いこともあって広瀬遺跡が58件と最も多く、次いで鈴谷瓦窯跡遺跡8件、水無瀬荘跡遺跡6件、山崎西遺跡5件、桜井遺跡3件、桜井御所跡遺跡2件、水無瀬離宮跡遺跡2件、西国

街道2件、鈴谷遺跡・山崎東遺跡・桜井駅跡遺跡・御所ノ平遺跡は各1件である。

次に、平成22年度の埋蔵文化財調査の届出における調査成果を述べる。

島本町における平成22年度の埋蔵文化財調査の中で、平成23年1月より開始した調査では、新たな島本町の歴史を発見する成果を上げられた。

この調査地は、広瀬地区にあり、埋蔵文化財包蔵地内「広瀬遺跡」にあたる。住宅の開発に伴い宅地造成時に、宅地内の道路部分での発掘調査を実施した。

広瀬遺跡内ということで、平成21年度に発見された水無瀬離宮跡に関連する施設の遺構検出も想定に入れながら発掘調査を行なったが、検出された遺構は、水無瀬離宮造営時よりも少し新しい時代のもと考えられ、直接の繋がりは薄いと思われる。

主な遺構は、江戸時代に作られたと考えられる非常に大きな石で組まれた井戸一基と、人間的に構築された石敷きである。調査地が水無瀬川のすぐ南側であったことから、この地域は何度も増水に見舞われたと考えられ、そのための護岸である可能性も高いが、古地図などによると、周辺に寺が存在していたという表記もあるため、寺の造営時の基礎事業の可能性も考えられた。石敷きの構築された時代は、石敷き内から出土した土器より、室町時代～江戸時代と考えられる。今後遺物の整理を進め、遺構の性格の解明と時代決定をしていきたい。残念ながら、水無瀬離宮に関連する遺構ではなかったが、今後、中世以降の広瀬地区の様相を知るには、貴重な資料と考えられる。

この遺跡の詳細な報告は次回行うこととする。

第4章 まとめ

この章では、平成22年度に行なった町内の遺跡範囲確認調査についての主な成果を以下に報告するものとする。

今回の調査で大きな成果をあげられたのは、広瀬地区内で実施した、水無瀬離宮跡に関係すると考えている「広瀬遺跡」での調査である。

平成21年度に宅地開発に伴う道路建設予定地で水無瀬離宮跡に関係する施設が発見されたことや、多数の軒丸・軒平瓦の出土を受け、その調査地で検出された建物跡の延長部分での試掘調査を行なった。結果、離宮関連施設建物の広がりや、また、平成21年度調査では建物の造営はなかったと想定していた場所にも新たに今回軒丸・軒平瓦が出土したことから、付近に何らかの施設のあったことも考えられるようになってきた。離宮廃絶時に関連建物が壊され、葺かれた瓦が投棄された場所であるとも考えることができるが、いずれにいても、施設の広がりを考える遺構や資料の発見となった。

本誌の掲載以外にも、新築住宅建設時の基礎掘削時には立会調査を行い、遺構や、土器の出土

が確認できた場所もある。平成21年度調査での報告などは未報告であるが、資料の整理が出来次第他の場所での調査結果を加えて報告を行いたいと思う。

その他、水無瀬荘跡遺跡や水瀬離宮跡遺跡については、その遺跡の性格につながる調査結果を得ることはできなかったが、今後も調査を続けていくことで、新しい事実解明ができるであろう。

以上のように、今まで明確でなかった水無瀬離宮跡についてもその範囲の一部が分かってきた。平成20年3月にJR島本駅が開業して以来、島本町には宅地開発の波が押し寄せている。埋蔵文化財の届出件数も昨年に比べると1.2倍となっている。埋蔵文化財包蔵地内・外での立会い調査や遺跡範囲確認調査は地域の歴史や日本の歴史を考える上では非常に重要な役割を果たしていると言える。特に島本町では後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮が存在していたことから日本の中世、特に院政期を考える上での重要な基礎資料につながり、かつ、島本町内の貴重な遺跡を保護していく上でも貴重と考えられる。今後も計画的な遺跡の調査を行い、その保護・保全に努めていきたい。

また、こうした調査をはじめとする文化財保護に係る施策は申請者や町民の方々の理解・協力に成り立つもので、今後ともそうした助力を求めながら保護に努めていきたい。

(参考文献)

- 島本町史編さん委員会編『島本町史 本文編』 1975
- 島本町教育委員会『島本町埋蔵文化財調査報告書』第1集 1991
- 鹿苑寺『特別史跡特別名勝 鹿苑寺（金剛寺）庭園 防災防犯施設工事に伴う発掘調査』
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊 1997年
- 星野猷二『塩澤家蔵瓦図録』伏見城研究会 2000年
- 星野猷二・宇佐晋一『器瓦録相』伏見城研究会 2004年
- 京都大学大学院文学研究科『京都大学所蔵古瓦図録Ⅱ（天沼俊一コレクション 日本篇）』
- 21世紀COEプログラム「グローバル化時代の多元的文学の拠点形成」事業実施委員会 2007年

图 版



調査地全景（南から）



試掘坑4・調査状況（西から）



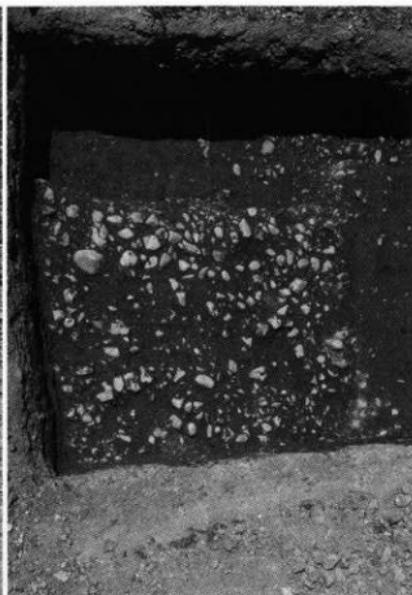
調査地全景（北から）



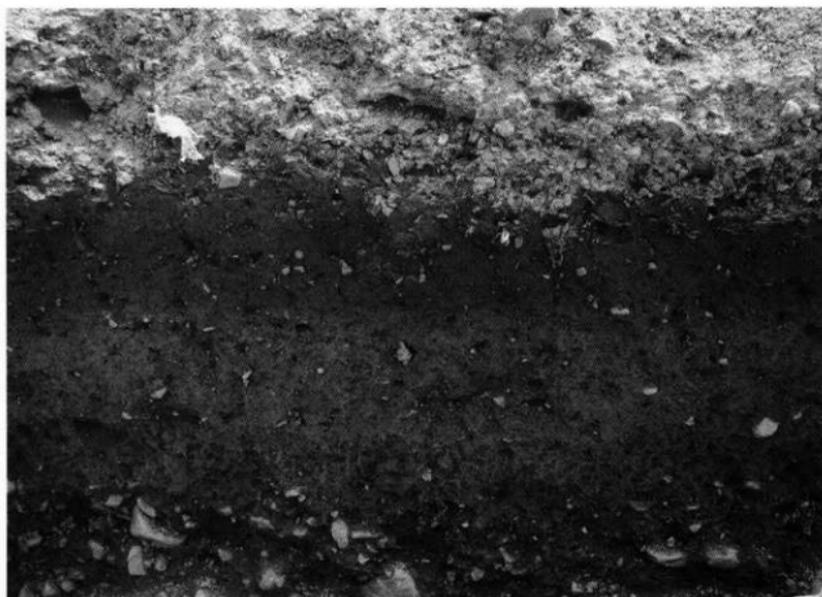
南壁断面（北から）



調査地全景（西から）



石敷き検出状況（北から）



南壁断面（北から）



遺構検出状況（西から）



北壁断面（南から）



拡張区第1遺構面全景（西から）



拡張区第2遺構面全景（西から）



北壁断面（南から）

図版六 広瀬遺跡出土遺物（軒丸瓦）





8



9



10



11



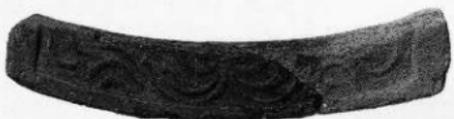
12



13



14



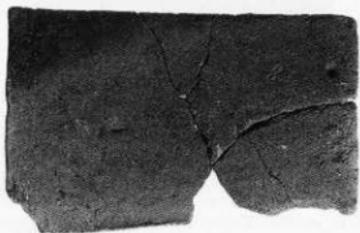
15



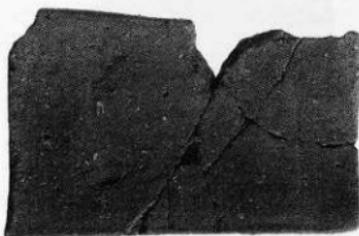
16



17



22



22



25



25



23



23



19



19



20



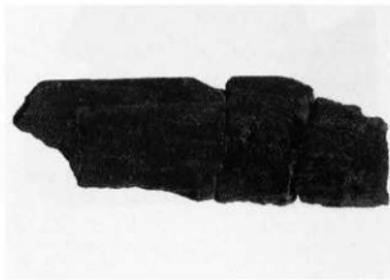
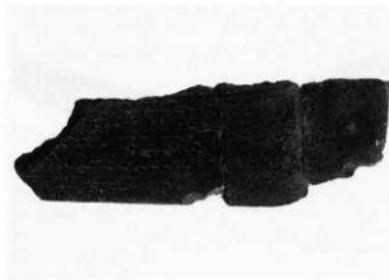
20

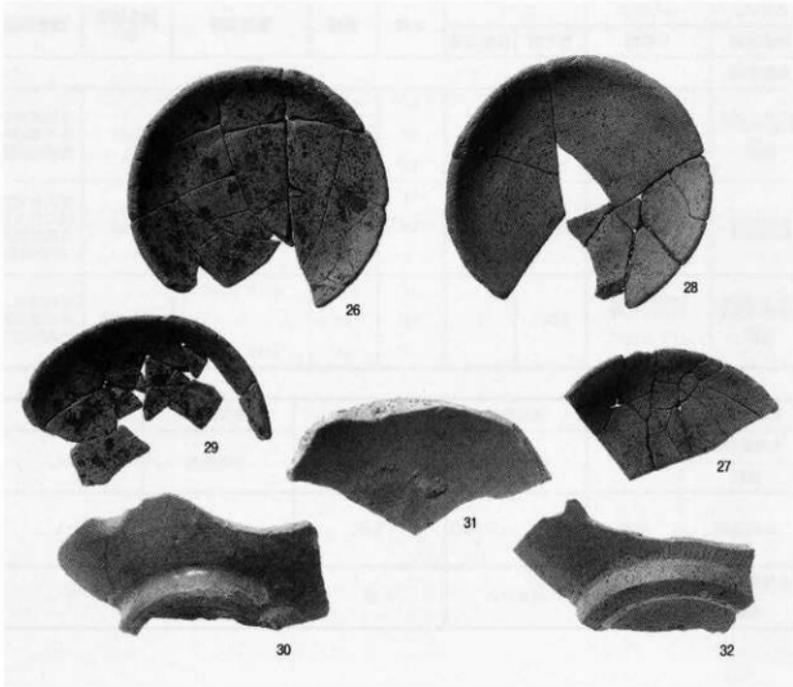


21



21





報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	山崎・東大寺・広瀬地区遺跡範囲確認調査報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第17集
編著者名	久保直子、板根 嗣
編集機関	島本町教育委員会事務局 生涯学習課
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 Tel. 075-961-5151
発行年月日	平成23年 3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		所在地	市町村					
遺跡範囲								
みづのうらたに跡 水無瀬荘跡 遺跡	しまもとちょうぶんかざ 島本町東大寺 三丁目地内	27301	10	34° 53′ 13″	135° 39′ 58″	2010.5.14 ～ 2010.5.21	10㎡	宅地開発に伴う遺跡範囲確認調査
ひろのせき跡 広瀬遺跡	しまもとちょうぶんかざ 島本町広瀬 ・JH地内	27301	14	34° 53′ 5″	135° 40′ 4″	2010.5.25 ～ 2010.8.6	42㎡	個人住宅建設に伴う緊急遺跡範囲確認調査
みづのうらたに跡 水無瀬離宮跡 遺跡	しまもとちょうぶんかざ 島本町広瀬 三丁目地内	27301	5	34° 53′ 7″	135° 40′ 18″	2010.12.15 ～ 2010.12.18	30.8㎡	宅地開発に伴う遺跡範囲確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水無瀬荘跡 遺跡	集落	奈良時代	溝	土師器皿	なし
広瀬遺跡	集落	奈良時代～江戸時代	土坑	瓦・土師器	なし
水無瀬離宮跡 遺跡	離宮	鎌倉時代	溝	土師器皿・陶器 羽釜・須恵器	なし

島本町文化財調査報告書

第17集

発行 島本町教育委員会
〒 618-8570 大阪府三島郡島本町坂井二丁目1番1号
TEL 075-961-5151

発行日 平成23年3月31日

印刷 三星商事印刷株式会社
〒 604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル舟町300
TEL 075-256-0061

